

深井中央中だより

令和5年 1月特別号

- ◎明るくあいさつと笑顔あふれる
- ◎授業中、落ち着いた雰囲気
- ◎掃除が行き届き、花いっぱい
- ◎生徒が安心して過ごせる

『元気な学校』
『静かな学校』
『きれいな学校』
『安全な学校』



「自助」と「共助」～阪神淡路大震災から学ぶ～

校長 至 孝也

—1995年1月17日火曜日 午前5時46分52秒—



淡路島北部を震源として発生し、6434 人も尊い命が亡くなり、未曾有の大災害を引き起こした兵庫県南部地震から、今日で 28 年を迎えました。正確に言うと、「阪神・淡路大震災」という言葉は、「この地震によって生じた災害」をさす呼称であり、地震の正式名称は「平成7年(1995年)兵庫県南部地震」ですが、ここでは地震自体をさして「阪神淡路大震災」と表記することとします。

阪神淡路大震災が起こった1月17日には、神戸市中央区の東遊園地において、阪神淡路大震災の追悼行事「1.17のつどい」が毎年行われています。

阪神淡路大震災と直接関係なくても、誰でも参列できる1.17のつどいに、コロナ禍になるまでは私も参列していました。心を込めて記帳、献花するため。地震発生時刻に手を合わせて黙祷するため。竹灯籠に点火して祈りを捧

げるために。

今年の1.17のつどいは、3年ぶりに、ほぼコロナ前の規模で開催されます。(記帳・献花は感染予防のために中止)

被災者でもない私が、1.17のつどいに初めて参列したのは、2018年でした。それまでも、参列したいとは思いつつ実行できずにいた私を動かしたのは、2018年の一文字漢字に惹かれたからでした。1.17のつどいでは、一般公募で決められた文字を、灯籠を並べて灯す行事が行われるのですが、2018年は「伝」でした。甚大な被害をもたらした阪神淡路大震災を、風化させずに伝えていかななくてはならない。建物の免震や、ボランティアや被災者のネットワーク作りを、伝えて生かしていかななくてはならない。この「伝」の一文字が、「子どもたちに“伝える”」という、私が就く教師の使命とも重なり、これは参列しなくてはと感じた…といういきさつでした。

報道でご存知の方もいらっしゃると思いますが、今年の文字は『おすぶ』です。

人と人は、おすばれて生きています。場所と場所がおすばれ、思いと思いがおすばれ、心と心がおすばれて、みんな生きています。

1.17のつどいに集い、手を合わせる人。現地には行けなくても、テレビや動画サイトで阪神淡路大震災の光景を見て心を痛める人。被災こそしなかったものの、経験したことのない揺れに恐怖を感じた人。家族や知り合いを亡くしたり、被災した人。住んでいる場所や状況は違っても、みんな「おすばれている」のです。

そこで皆さんに、ひとつ想像してほしいことがあります。それは、もし今、大地震がきたらどうするか。大地震がきた

らどうすべきかを想像してほしいのです。上から落ちてくる物がないか、確認する。非常口の場所を把握しておく。緊急時の連絡の取り方や集合場所を、家族や大切な人と話し合って決めておく。こういった、「災害が起こってなくてもできるシミュレーション」を、日頃から重ねておくことが大事です。また、自分で自分を守る「自助」の努力はもちろんしなければなりません。災害時こそ、周りの人たちで助け合う「共助」の心を持つことが重要です。阪神淡路大震災の



際、倒壊家屋に多数の被災者が閉じこめられました。消防に救助を要請しようにも電話はつながらず、消火活動が追いつかないほどの件数の火災が発生している上に道路は大渋滞で、消防の救助活動は難航を極めました。結局、消防が救助できたのは、全体の2割。残りの8割の方々は、近隣住民の方達によって助け出されたとの記録が残っています。私が常日頃から皆さんに伝えている思いやりの心『情』は、こういった異常事態発生時には、人命をも救う力を持っているのです。

阪神淡路大震災から28年。これをきっかけに自助と共助を意識して、周りの人と防災の話をしてもらえればと思います。避けることができない災害には、「できる時に、できることを、できるだけやって備える」しかありません。しかし、防災を身近に考えることが、まず大切です。

縁あっておすばれた人を、大切にしながら生きていくために。



ブログのアドレス <http://www.sakai.ed.jp/fukaichuo-j/>

《中学校ホームページの『ブログページ』には、本校のめざす学校教育の様子を掲載していますのでご覧ください！

《携帯サイトQRコード》

